

『冬が来る前に』

西脇市病院事業管理者・病院長 岩井正秀

今年の夏は、異常に長く、厳しいものでした。晩夏の頃には、不順な天候が続きましたが、やがて、秋がようやく訪れ、次第にその深さを増してくる季節となりました。新型コロナウイルス感染症が、今年の五月に5類になったこともあり、世の中は随分と活気を取り戻して来たように思われます。しかしまだまだ、この感染症を軽んじることはできません。いまでもその感染力は強く、高齢の方や免疫力の低下した方の中には重症化する症例も見られています。こういう時期こそ、私達はより注意深くあらねばなりません。

『徒然草』に「高名の木登り」という話があります。木に登って枝を切る名人がいて、彼の弟子が仕事をしているのを見ながら、弟子が木の高い所にいる時は何も言わず、軒ぐらいまで降りて来た時に、急に「おーい、気を付けろよ」と声をかけたそうです。その理由を聞くと、「高い所では誰でも恐いから注意しているが、もう少しで地面という所で油断して落ちて怪我をするのです」と答えたということです。『過ちは、やすき所になりて、必ず仕（つかまつ）ることに候（さうら）う』この約七百年前に書かれた本には現代にも通じる多くの話がありますが、これもその一つです。そしてそれは新型コロナ感染症のみならず、医療全般において、常に意識すべき大切な教訓ではないでしょうか。

西脇病院では、この八月から、コロナ専用病棟を閉鎖し、一般病棟で分担して新型コロナの患者さんを受け持つようにしました。そうすることによって、より柔軟に、新型コロナの患者数の増減に対応することが可能となりました。また、院内の多くのスタッフが、感染症に対応することにより、病院全体のスキルも上がってきたと感じています。

秋から冬に向けては、さらに重症の呼吸器感染症やインフルエンザの流行も予想されます。病院は十分な受け入れ体制を整えていなくてはなりません。一方、これまでと同様、住民の皆さんにも、感染症に対する注意を続けながら、日常を過ごしていただきたいと心より願います。感染症に対しては、地域全体で立ち向かわなくてはならないという、この三年余りの経験は決して忘れてはならないのであります。

社会は新型コロナ感染症対策に関して、緩和傾向にある今日この頃ですが、そのことにより、ウイルスの感染性は当然高まって来るでしょう。過剰になる必要はありませんが、毎年救急患者さんの増加する冬に向けて、誰もが基本的な予防策を怠ってはならないと考えます。

私達も、鎌倉時代の木登り名人のように、油断することなく、お互いに声を掛け合っているようではありませんか。

『おーい、気を付けろよ』

2023. 11. 30